

平成19年度 藤崎こども文化センターの管理運営に対する評価について

1 指定管理者

(1) 指定管理者	財団法人かわさき市民活動センター
(2) 指定期間	平成18年4月1日～平成23年3月31日
(3) 業務の範囲	藤崎こども文化センターの管理運営に関すること 藤崎小学校・川中島小学校わくわくプラザの管理運営に関すること

2 管理運営（事業執行）に対する評価

評価項目	平成19年度管理運営の状況	評価及び指導
(1) 管理業務の実施状況		
施設の運営に関する職員体制に関すること	①人的能力の充実を図るため職員の児童厚生員資格取得を進めると共に、新規採用職員は業務に関する資格取得者から選考しました。 ②本部の職員体制については管理係長1名、区運営担当主査を3名配置して各館との連携強化を図りました。	職員の業務に関する資格の取得を進めたこと、また本部職員の充実によりかわさき市民活動センターが管理運営している他のこども文化センターとの連携を図ったことは評価できる。職員の研修については、スケールメリットを生かし、大規模な研修を実施し、また、指定管理施設の各区、施設単位での研修も実施することにより職員のスキルアップを図っていたことは評価できる。今後もこども文化センター及びわくわくプラザの職員配置が適切に行われるよう努めること。
施設の管理運営に対するニーズ等の把握に関すること	こども運営会議の定期的開催により、利用者の意見を取り入れた。また、会議へ参加できない利用者に配慮して、職員からの声かけに力を入れ、直接、意見聴取を行った。一方、各町内会や各PTA、地域教育会議など地域の関係団体から運営協議会へ委員を派遣していただき、地域の要望を受け入れる窓口が出来た。また、わくわくプラザでは年間で3回行った保護者懇談会や保護者から直接お話を伺うことにより意見収集に努めた。意見箱の設置については早急に設置したい。	継続的に利用者や地域住民からの意見・要望等を聞きニーズの把握に努めていたことは評価できる。 意見箱については、事業計画に基づき早急に設置すること。
サービスの提供に関すること	こども文化センターでは、利用者の要望にあったサービスの提供を目標に、こども運営会議の意見を取り入れつつ、職員の創意工夫や地域の人材を活用することで、多彩な行事を行った。また、大規模修繕を実施し清掃に力を入れたことにより、乳幼児から高校生まで、利用しやすい環境を整えた。わくわくプラザでは、こども会議で出た意見を取り上げ、「きまり」を改正したり、行事の回数を増やしたりした。また、障がい児対応に力を入れ、スタッフへの研修を実施し、スタッフ一人ひとりが障がい児への理解を持つように努めるとともに、ミーティングを重ねることで、スタッフ全体のチームワークを整えた。	運営協議会やこども会議等を実施しサービスの提供を行っていた。また、ホームページの内容をより充実させていたことは評価できる。障害児については、障害児相談員を雇用し、必要に応じ職員の相談を行い障害児の対応を充実させていたことは評価できる。

事業の実施に関する こと	こども文化センターでは、事業計画に挙げられた内容のものとは若干異なるが、一般事業として、毎月、季節に合った行事を実施した。また、子育て支援に関しては、上述したとおり、クラブ室を乳幼児と保護者が利用できるような環境を整えつつある。一方、中高生の利用者に関しては、居場所として定期的に利用するグループがみられた。わくわくプラザでは、安全を第一にしながらも、楽しい施設を目指して、行事の実施に力を入れた。また、管轄する2校のプラザ合同の行事やこども文化センター行事にわくわくプラザ利用者が参加する機会を設け、毎日利用する児童が楽しめるよう配慮した。	地域の人材を活用した行事を実施したことは評価できる。今後は、地域のニーズを把握し、事業に繋げていくこと。今後も、ボランティアの活用に努めること。
個人情報の取扱いに関する こと	個人情報の取り扱いは、「財団法人かわさき市民活動センター個人情報保護方針」に基づいて行った。また、職員研修を実施し「財団法人かわさき市民活動センター個人情報保護方針」と付随する内容（守秘義務など）を確認するとともに、具体的な場面において注意が必要な箇所（名簿の管理から保護者対応まで）を職員全員で検討した。	個人情報の取扱いについては、概ね問題なく処理されている。
施設の安全管理に関する こと	職員および臨時職員に対して、緊急時の対応、施設の安全確認や応急手当に関する研修を行った。また、避難訓練を法令にのっとり実施したほか、職員会議やスタッフミーティングにおいて、施設の安全について、定期的に話し合いを行った。さらに、毎日の清掃時に、室内の遊具や備品の点検と屋外の安全確認を行った。不審者情報に関しては、財団や地域のネットワークを通じて迅速に情報を収集し、適切な対応をとった。	毎日の清掃や始業時の点検を行い、安全性に努めている。また、藤崎小学校・川中島小学校わくわくプラザにセンサーライトを設置し、より安全性を高めていたことは評価できる。
(2) 利用状況		
①こども文化 センター	延べ利用者数 19,308人 延べ団体利用数 2,347団体 (主な行事等) ミニホッケー ふじさきこ文マツリ (特色のある行事) すごい縄跳び！ロープパフォーマンス (わくわくプラザ合同行事)	地域の状況に合わせた特色ある行事の実施している。また、地域との連携を図り行事を実施していることは評価できる。行事の実施に当たっては、具体的な数値目標等を設定し客観的な達成状況が分かるように心がけること。

②わくわくプラザ	1 藤崎小学校わくわくプラザ 登録者数 261人 延べ利用者数 14,519人 (主な行事等) 本読み プラコップ (特色のある行事) トマト狩り	行事については、順調に実施されている。利用状況は具体的な数値目標等を設定し客観的な達成状況が分かるように心がけること。
	2 川中島小学校わくわくプラザ 登録者数 243人 延べ利用者数 15,272人 (主な行事等) 本読み・宿題 カキ氷・映画会 (特色のある行事) 巨大お雛様作り	

評価項目	平成19年度管理運営の状況	評価及び指導
(3) 収支状況		
① 収支状況	(単位：円) 収入 指定管理料 44,417,138 支出 人件費 40,168,534 管理費 2,997,217 事務経費 1,937,847 その他経費 1,436,042 青少年事業資産取得支出 909,090 減価償却引当資産取得支出 40,492 第1回精算に伴う返納金 636,363 合計 48,125,585 差引 ▲ 3,708,447	単館では支出が上回ったが、55館全体での指定管理料内で事業の実施を行っている。今後は収支のバランスを考慮しつつ、事業をより充実させるため適切な経費の執行を図ること。

3 管理運営（事業執行）に対する全体的な評価

指定管理以前から委託事業者としてこども文化センター及びわくわくプラザの管理運営に携わっていた経験を生かし、また、全市58施設の内55施設の指定管理者としてのスケールメリットを生かし、施設ごとに偏りの無いサービスの提供を行っており、区ごとのこども文化センター合同行事の実施や全市規模の行事の実施を行っていた。行事の実施についても施設ごとに特色ある行事を実施していることは評価できる。また、各施設を統括する本部職員を配置することにより、他のこども文化センターと連携を図り管理運営を行っていたことは評価できる。

55施設の指定管理者としてのスケールメリットを生かし、安定した経営を行っていたことは評価できる。

4 来年度の管理運営（事業執行）に対する指導事項等

次年度も引き続き55施設の指定管理者として安定した経営、他施設と連携した行事等スケールメリットを生かした管理運営を実施すること。事業の実施に当たっては運営協議会を始め地域と連携し、より一層地域の状況に合わせた特色ある行事の実施等を行うこと、また目標利用者数を設定する等具体的な数値目標を設定し客観的に事業の達成状況が分かるようにすること。